

全国農政連推薦・県農政連公認
参議院議員藤木しんやの

永田町でも**百姓宣言**

「新たな年の幕開け」

【通常国会はじまる】

謹んで新春のお慶びを申し上げます。引き続き「コナ禍」での生活様式が続いてまいります。本年が農業にとりまして希望をもてる1年になりますよう願っております。

昨年末の自民党本部では、新型コロナウイルス関連の補正予算はじめ、税制改正、次年度当初予算確保など白熱した議論が交わされました。

今月に召集された第204回通常国会で、政府は最優先課題である新型コロナウイルス対策を盛り込んだ令和2年度第3次補正予算案を1月中旬に成立させる見込みであります。

また、農業関連におきましても、要件変更により皆さまに混乱を招いた高収益作物次期作支援交付金の財源確保のほか、TPPなど大型貿易協定の国内対策・畜産クラスター・産地パワーアップ事業予算の確保、需給緩和の懸念が非常に強まっている米政策などが審議されます。

食料安全保障の確立は勿論のこと、「コナ禍」でも揺るがない農業生産の基盤強化と経営所得安定対策・国土強靱化を着実に進め、現場に寄り添った政策立案に向け引き続き働きかけていかなければなりません。

【危機感が強まる】

西日本を中心に家きん飼養農場で高病原性鳥インフルエンザが発生しております。隣県であります福岡県・大分県・宮崎県でも陽性が確認され、危機感が大変強まっています。

先月の農林水産委員会の質疑でも鳥インフルエンザや豚熱等の家畜衛生対策の強化・徹底について政府へ強く申し上げました。発生を未然に防止するには、それぞれの生産者の皆さんが各農場で飼養衛生管理を確実に取りまわることが何よりも重要になります。

また、関係者が地域一体となって農場の防疫体制を講ずることが発生防止及びまん延防止の観点からも効果的であります。

しばらくは渡り鳥が日本に飛来する時期でありウイルスが持ち込まれる可能性が高く、どこの地域でも発生するリスクが想定されますので改めて飼養衛生管理の遵守をお願いします。



▲自民党農業政策基本検討委員会にて水田活用の直接支援交付金の深掘り支援拡充を主張

全国・県農政連推薦

参議院議員山田としおの

農政問題に斬り込む

「農林水産業を元気にするために、

全力で頑張ります」

国の存立と安定の在り方として、基本となるのは、国民の食の安定確保、そしてそれを供給する農業者の経営維持と農地等生産条件の確保です。

このバランスを維持しなければならぬのに、生産サイドに問題があるとして、規制改革推進会議等の農業攻撃が、我が国の地域と農業者に不安と混乱を与えています。このことは、国家戦略特区諮問会議の提言の具体化として実施に移された、兵庫農養父市における株式会社による農地所有の実態が、極めて端的に問題の所在を示しています。

株式会社の農業参入が着実に展開されていると喧伝されていますが、参入企業による生産・加工・流通・販売の取り組みが、きちんとなされているかという点、多くの課題を抱えていると言わざるを得ません。なぜなら、養父市における参入企業の農地の所有は、参入企業30社のうち農地所有は6社（現在は1社が撤退し5社）に留まり、それも、全体で1・6ヘクタールという、形だけのものになっているからです。これでは、地域に根差し農業経営を行っているとは言えません。

一方で、養父市に隣接する山間地域で、農地利用を集約・連携した若い農業後継者グループは、法人化して機械の共同利用を核とする協同作業と共同販売を行い、しっかりと所得を実現し成果を出しています。株式会社の農業参入でなければならぬということではないのです。

地域を中心にした法人組織として、地域で活動し、成長している取り組みがあるのです。何が大事なのか、しっかりと詰めてかかります。そして、地域の実態を踏まえた法人経営を作り上げましょう。

もちろん、JAは地域の核として、「地域の仲間と協同し」「地域の農業生産と食の安定供給と」「誇りある美しい街と村づくり」に全力をあげましょう。私も協同の力を発揮できる政策の具体化と推進に全力を尽くします。



▲兵庫県養父市の国家戦略特区を視察

参議院議員



Fujiki Shinya
activity report

藤木しんや

活 動 報 告

新型コロナ対策に全力で
立ち向かっています

より一層農政に多様な
農家の声を反映させます

農業と地域の未来に挑戦します



地元の青壮年部へ国政報告



JA全青協より要請



参議院農林水産委員会にて質疑



自民党畜産・酪農対策委員会
事務局長を拝命



事務局長として養蜂議員連盟を開催



自民党農林部会にて質疑



県畜政連から公認証をいただきました